

沿線地域における公共交通ネットワークの将来像

【交通拠点（地域拠点）の位置付け】

	福島駅	高子駅	保原駅	梁川駅	丸森駅	角田駅	楢木駅	左記以外の駅 （無人駅）
【中核拠点】 ・商業、医療、教育等の都市機能が集積した沿線地域の中核となる拠点 ・鉄道相互（JR 在来線・新幹線・福島交通飯坂線）の乗り継ぎ拠点	○							
【主要交通結節点】 ・鉄道相互（JR 在来線の仙台方面、白石方面）の乗り継ぎ拠点	○						○	
【交通結節点】 ・路線バス、コミュニティバス、タクシー等の地域内交通（居住地と駅、駅と目的施設などをつなぐ移動手段）と結節する乗り継ぎ拠点 ・福島駅～保原駅～梁川駅間を並行して運行する路線バスとの接続拠点（保原駅、梁川駅）		○	○	○	○	○		
【地域拠点】 ・駐車場や駐輪場の設置等による自家用車等でアクセスしやすい拠点 ・駅周辺における生活利便機能等が充実した、地域の住民が集まる拠点 ・駅施設を利用した交流拠点		○	○	○	○	○		○

【公共交通の機能分類】

	阿武隈急行線	JR東北・山形新幹線	JR東北本線	JR奥羽本線	福島交通飯坂線	福島駅～保原駅～梁川駅間の路線バス（福島交通）	路線バス（福島交通）	高速バス	コミニティバス	デマンド交通	タクシー
【都市間広域交通】 ・沿線地域外への移動を担う。 ・中核拠点及び主要交通結節点において阿武隈急行線と結節する。	○	○	○				○				
【地域の基幹交通】 ・交通結節点及び地域拠点から中核拠点や主要交通拠点の間、交通結節点の相互間における移動を担う。 ・基本的には、福島側地域から中核拠点への移動、宮城側地域から主要交通結節点への移動を担う。	○				○	○					
【地域内交通】 ・居住地と交通結節点の間の移動を担う。 ・交通結節点と目的施設の間の移動を担う。	○						○		○	○	○
【観光交流軸】 ・沿線地域における観光等の周遊移動を担う。	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○

阿武隈急行線地域公共交通計画【概要】

地域公共交通計画とは

地域公共交通計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（2007年法律第59号）」に基づく計画で、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものである。本計画に基づき、地域公共交通に関する取組を計画的に進めることで、沿線地域と公共交通双方の持続性を高めていく。

計画の目的

本計画では、阿武隈急行線の具体的な運行実績・利用実態、利用者ニーズ及び阿武隈急行線を取り巻く課題を踏まえ、運行継続の実現に向けた施策や利活用策の方向性について定める。

さらに、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を踏まえ、まちづくりや観光振興等の地域戦略との一体性を確保し、阿武隈急行線沿線全体で、地域にとって望ましい持続可能な公共交通の実現を目指す中で、地域、交通事業者及び行政等が果たす役割を定めるものとする。

計画の役割

- ① 阿武隈急行線沿線地域の“広域的”な地域公共交通のマスタープランとして、地域にとって望ましい阿武隈急行線を中心とした公共交通ネットワークの姿を明らかにする（ビジョン及び施策体系）
- ② 地域特性に応じた多様な交通サービスによるネットワーク構築を目指す
- ③ 阿武隈急行の持続可能な経営に資する
- ④ 阿武隈急行線沿線地域の持続可能なまちづくり（都市計画、商業、観光振興、教育など）の取組との一体性を確保する
- ⑤ 地域・企業など多様な関係者との連携を促進する
- ⑥ 具体的な数値目標とPDCAサイクルにより、計画の達成に向けた継続的な改善を推進する

計画の位置付け

本計画は、沿線3市2町及び2県の上位・関連計画（総合計画、都市計画マスタープラン等）や公共交通関連計画等との整合・連携を図り、それら計画で定める将来都市像等の実現に向けて、地域公共交通のマスタープランとして策定する。また、阿武隈急行線沿線地域の持続可能なまちづくりとの一体性の確保を図り、沿線地域の活性化に資する計画とする。

計画の区域

計画の区域は、福島市・伊達市・角田市・柴田町・丸森町の阿武隈急行線沿線の地域とする。

計画の期間

計画の期間は、2026年度から2030年度までの5年間とする。

計画の主体

計画の策定主体は、福島市、伊達市、角田市、柴田町、丸森町、福島県及び宮城県とする。

阿武隈急行線地域

公共交通の課題

沿線地域の現状にみる課題	
沿線地域における公共交通利用者確保	
市町間の広域的移動を支える公共交通ネットワークの確保	
駅から沿線の生活利便施設への交通手段の確保	
観光需要の掘り起こし、観光施設への移動手段の確保	
沿線のまちづくりとの連携、駅を中心とした拠点機能の向上	
沿線地域の公共交通の現状にみる課題	
交通結節点としての拠点駅の機能強化	
駅に接続する公共交通手段の確保	
阿武隈急行線と路線バスの一部運行区間の重複	
公共交通を取り巻く事業環境の維持・確保	
阿武隈急行線の現状・ニーズにみる課題	
阿武隈急行線の年間輸送人員の確保	
日中利用・観光利用の拡大	
県境区間の利用拡大	
利用者ニーズに合わせたサービスの提供	
阿武隈急行(株)の運営維持	

課題への対応の方向性

- 方向性① 沿線地域の生活を支える地域公共交通の構築・拡大**
 - ・通勤・通学の手段等として地域公共交通の構築
 - ・利用者ニーズに応じたサービス見直し
 - ・通勤、通学以外の利用者の拡大
- 方向性② 沿線地域全体の移動を支えるための一體的ネットワークの構築**
 - ・他の鉄道や各駅に接続する公共交通と連携した交通サービスの提供
 - ・並行する公共交通と互いに補完し合い、効率的で利便性の高い持続可能な公共交通網の構築
 - ・拠点駅の機能強化による利便性の向上
 - ・駐車場・駐輪場、送迎車両待機場所等の確保
- 方向性③ 沿線地域のまちづくりとの連携**
 - ・居住・都市機能誘導や観光振興等のまちづくりとの連携
 - ・コミュニティ拠点としての駅の利活用の検討
- 方向性④ 観光利用者の維持・拡大**
 - ・観光需要の掘り起こしや二次交通の整備による観光利用者の拡大
- 方向性⑤ 行政・交通事業者・地域住民等の連携**
 - ・関係者の連携による公共交通の維持・利用促進
- 方向性⑥ 安全・快適な公共交通**
 - ・鉄道施設の計画的な整備・更新の実施
 - ・車内・待合場所等の快適な環境づくり
- 方向性⑦ 阿武隈急行線の持続的な運営・運行体制の構築**
 - ・持続的経営体制構築のための経営改善
 - ・新たな収入確保等の検討や、鉄道事業再構築事業の活用、沿線自治体による持続可能な支援スキームの構築

基本的な方針と目標

沿線地域の持続性向上に欠かせない基幹インフラとして、「地域と共にあり」「地域をつなぐ」公共交通ネットワークの構築を目指す

- 基本方針 1 鉄道を軸とした沿線地域の一體的な交通ネットワークの形成**
- 目標 1 : 阿武隈急行線とバス交通等の一體的なネットワーク構築と利用ニーズに対応したサービス提供**

- 基本方針 2 鉄道沿線の交通まちづくりの推進**
- 目標 2 : 駅を中心としたまちづくりの推進**

- 目標 3 : 生活やコミュニティ拠点としての場の提供**

- 基本方針 3 多様な関係者との連携による公共交通の利用推進**

- 目標 4 : 沿線企業・施設等との連携による公共交通の利用拡大**

- 目標 5 : 交流人口拡大のための沿線地域の魅力創出**

- 基本方針 4 安全・安心で持続可能な地域公共交通の構築**

- 目標 6 : 阿武隈急行線の安全・安心な運行の確保**

- 目標 7 : 阿武隈急行(株)の経営改善**

重点施策 阿武隈急行線の持続的な運行・運営のために、特に優先的かつパッケージで取り組むべき事項

- 重点施策① 阿武隈急行線の利用人員及び収入の維持・拡大**

- 指標① : 阿武隈急行線の利用者数**

- 重点施策② 持続可能な鉄道事業基盤の確保**

- 指標② : 阿武隈急行線の「運送費」に対する「鉄道事業営業収益」の割合**

目標達成のための事業及びその実施主体

目標	事業	実施主体					
		阿武隈急行(株)	バス事業者	タクシー事業者	県	市・町	地域団体・住民
目標 1	沿線地域公共交通の路線再編	●			●		
	駅の案内表示・広報方法の改善	●			●		
	阿武隈急行線を基軸とした一體的交通サービスの提供（地域MaaSの展開・キャッシュレスサービスの導入検討）	●	●	●	●	●	
	利用ニーズに応じたダイヤの見直し	●					
	乗り継ぎ方法の案内強化・改善	●					
	JR等との連携	●					
	駅の駐車場、駐輪場、送迎車両待機場所の運用改善・整備					●	
目標 2	利用者とのコミュニケーション強化	●		●	●		
	駅周辺におけるイベント・行催事等との連携	●		●	●	●	
	駅周辺における居住・都市環境整備の推進			●	●		
	駅周辺における企業・工業団地等の開発促進				●		
目標 3	駅における生活拠点づくり	●		●	●	●	
	地域と連携した駅等の美化活動	●				●	
目標 4	沿線企業・学校とのコミュニケーション強化	●		●	●		
	沿線企業や大学等と連携したモビリティマネジメント	●				●	●
	高齢者等の利用促進	●				●	●
目標 5	鉄道自体の魅力向上	●					●
	情報発信の強化	●			●	●	●
	沿線観光資源を活用した需要開発	●			●	●	●
目標 6	老朽施設の更新	●					
	駅・待合施設の環境改善	●			●	●	
目標 7	旅客運賃以外の収入確保	●					●
	鉄道事業基盤の強化	●					
	組織間の役割分担と有機的連携の強化	●			●	●	●